



新国立劇場 2024/2025 シーズンオペラ

プッチーニ 蝶々夫人

Madama Butterfly / Giacomo Puccini

2025年5月14日(水)～ 5月24日(土)

会場:新国立劇場オペラパレス 2025年2月22日(土) 10:00～ 前売開始



『蝶々夫人』2019年鑑賞教室公演より

日本人ならば一度は舞台上で観たい 哀しくも美しい蝶々さんの純愛物語

明治時代の長崎を舞台にした蝶々さんの愛と哀しい運命が、プッチーニならではの美しく感動的な音楽で描かれるオペラ『蝶々夫人』。日本が舞台とあって日本ではひと際人気で、新国立劇場でも最も多く上演されてきた看板演目です。アメリカ士官ピンカートンへの一途な愛を貫く蝶々さんの悲劇が、栗山民也演出により、鋭く雄弁なドラマとして迫ります。美しく繊細で、蝶々さんの凛とした姿を伝える新国立劇場の『蝶々夫人』は、海外からの鑑賞者も多い、世界中のファンに愛される人気演目です。

有名な「ある晴れた日に」に象徴される美しい音楽、心揺さぶる物語はオペラ初心者にもお薦め。一度は劇場で観ていただきたい傑作です。

これぞ"理想の蝶々さん"! 今こそ聴きたい小林厚子の蝶々夫人

蝶々夫人を演じるのは、ドラマティックな声と情感あふれる表現、そして近年特に充実した活動が高く評価されるソプラノ小林厚子。

日本各地で歌い、“理想の蝶々さん”と評判の蝶々夫人役を、新国立劇場のシーズン公演で初めて披露します。

絶妙なコントロールと自然な感情の発露が持ち味の小林厚子の蝶々さんは、出演を重ねる新国立劇場のオペラ鑑賞教室公演でも絶賛されてきました。感動を呼んでやまない、世界に誇る蝶々さんにご期待ください。

<資料のご請求、ご取材のお問い合わせ>

新国立劇場 制作部オペラ 広報担当:高梨木綿子

Tel:03-5352-5733/Fax:03-5352-5709/E-Mail: takanashi_y1307@nntt.jac.go.jp

蝶々さんのひたむきな愛にオペラパレスが涙に包まれる… 日本が舞台の名作オペラ『蝶々夫人』

明治時代の長崎を舞台にした蝶々さんの愛と哀しい運命が、プッチーニならではの美しく心揺さぶる音楽で描かれる『蝶々夫人』。世界中で観客の涙を誘っている人気作中の人気作ですが、誇りをもって愛を貫く蝶々さんの悲劇は日本でもひと際人気で、新国立劇場でも最も多く上演されている看板演目です。

プッチーニの音楽は美しくまっすぐに心に響き、ドラマティックに物語を伝えます。フィギュアスケートでも何度も使用されている名アリア「ある晴れた日に」は、音信が絶えても夫ピンカートンを信じる思いを歌う蝶々さんのアリア。ピンカートンの2つのアリア「世界中どこでもヤンキーは」「さようなら、花咲く家よ」、蝶々さんとピンカートンの長大な愛の二重唱、蝶々さんとスズキの「花の二重唱」、美しいハミングコーラス、そして幕切れの蝶々さんのアリア「お前、かわいい坊や」と、名曲の数々は枚挙に暇がありません。

涙なしでは見られない、心揺さぶるドラマはオペラ初心者にもお薦め。日本人ならば一度は劇場で観てみたい、新国立劇場が誇る名作です。



簡潔な舞台だからこそ伝わる日本の美と心 栗山民也の名演出

栗山民也による演出は、『蝶々夫人』の決定版といえる名舞台。装飾をそぎ落とし、蝶々さんの暮らす世界と外界を効果的に対比する舞台（美術・島次郎）、一瞬一瞬のドラマをクローズアップする雄弁な照明（勝柴次朗）、上質でセンスあふれる衣裳（前田文子）と、日本の舞台芸術界トップクリエイター陣の繊細な感性、そして表面的な“日本らしさ”に流されない、真の日本的な美が凝縮されています。



人物の内面に迫る演劇的アプローチも特色で、至福の愛の時間や、蝶々さんの希望が絶望に転じるドラマが、丁寧に描き出されます。長い階段から近づいてくる蝶々さん登場のシーンや、蝶々さんがはやる気持ちを抑え、戸外でじっと星条旗を見つめるハミングコーラスのシーンの演出などは特に印象的です。最終場、蝶々さんの子どもが登場する衝撃的なラストシーンは、蝶々さんの死で美しく完結して終わりではない現実のドラマを想起させ、強い印象を残します。近年新国立劇場の『蝶々夫人』は海外からの注目も高く、外国人の鑑賞も増えています。世界中のファンから愛される『蝶々夫人』をぜひご体験ください。



"理想の蝶々さん"小林厚子をはじめ、実力派の出演陣が勢揃い



小林厚子

数々の日本人ソプラノが演じてきた蝶々夫人役に今回登場するのは、ドラマティックで豊かな声と、情感あふれる表現が圧巻のソプラノ**小林厚子**。大野和士芸術監督も「日本人離れしたドラマティックな声」「感情を自然に歌に乗せる飛びぬけた表現力」と絶賛してのキャスティングです。新国立劇場の“高校生のためのオペラ鑑賞教室”公演で何度も歌い込み、藤原歌劇団公演など近年日本各地で立て続けに歌って、「理想の蝶々さん」と感動を呼び続けている蝶々夫人役を、いよいよ新国立劇場のシーズン公演で初めて披露します。

小林厚子は新国立劇場へは『アイダ』タイトルロールをはじめ、『オテロ』デズデーモナ、『ドン・カルロ』エリザベッタ、『アンドレア・シェニエ』マッダレーナ、『イエヌーファ』タイトルロール、『タンホイザー』エリーザベトなどドラマティックな数々の役でカバー歌手として参加し、公演の成功に貢献してきました。高校生のためのオペラ鑑賞教室公演では『蝶々夫人』のほか『トスカ』にも主演、2018年には急遽、シーズン最終公演の『トスカ』に代役として登場して大喝采を受け、実質的な新国立劇場デビューを衝撃的に飾りました。コロナ禍のもと海外のアーティストの来日が困難になると、『ワルキューレ』ジークリンデ、『ドン・カルロ』エリザベッタと大役の代役を次々に成功させ、トップソプラノとしての評価を不動のものに。近年は東京都交響楽団『グラゴル・ミサ』、東京フィルハーモニー交響楽団『オテロ』などでも大好評を博し、クラシックファンの圧倒的信頼を得ています。近年出演を重ねる「NHKニューイヤーオペラコンサート」でも圧巻の名唱で、広く全国区の人気を獲得しています。今聴きたいソプラノ歌手ナンバーワンといえる小林厚子の真打ちたる蝶々さん、圧巻の感動的な表現にぜひご期待ください。



ホセ・シメリーリャ・ロメロ



ブルーノ・タッディア



山下牧子

共演者には、アメリカ海軍士官ピンカートンに、ヨーロッパの劇場で引っ張りだこのアメリカの新星テノール、**ホセ・シメリーリャ・ロメロ**、シャープレスには躍進中のイタリア人バリトン**ブルーノ・タッディア**がそれぞれ新国立劇場初登場。蝶々さんを献身的に支えるスズキには**山下牧子**が出演します。指揮は明晰で劇的な表現が評判の**エンリケ・マツォーラ**が13年ぶりの新国立

劇場登場となります。

<あらすじ>

明治の頃、長崎の海を望む丘。アメリカ海軍士官のピンカートンは、結婚幹旋人ゴローの仲介で15歳の芸者、蝶々さんを身請けし、アメリカ領事シャープレスの忠告をよそに軽い気持ちで結婚式を挙げる。ピンカートンは帰国するが、愛を信じて疑わぬ蝶々さんは音信不通の夫の帰りを、3歳になった息子と女中のスズキとともに待つ。やがてアメリカで正式に結婚したピンカートンが妻ケートを連れて長崎に。全てを悟った蝶々さんは、我が子をケートに託し、父の形見の短刀で命を絶つ。



『蝶々夫人』ダイジェスト映像

<https://www.youtube.com/watch?v=EMeOE0aDMI0&t=40s>

<主要キャスト・スタッフプロフィール>

【指揮】エンリケ・マツォーラ

Enrique MAZZOLA

シカゴ・リリック・オペラ音楽監督、ベルリン・ドイツ・オペラ首席客演指揮者。イタリア出身。ベルカント・オペラ並びにフランス・オペラ、初期ヴェルディの専門家として知られる。2012～19年イル・ド・フランス国立管弦楽団芸術監督兼音楽監督。18年フランス芸術文化勲章シュヴァリエ叙勲。24年までブレゲンツ音楽祭レジデント指揮者として、『ラ・ボエーム』『魔弾の射手』などを指揮。オペラでは、ロッシーニ・オペラ・フェスティバル、シャンゼリゼ劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、フィレンツェ歌劇場、ミラノ・スカラ座、グライントボーン音楽祭、エクサン・プロヴァンス音楽祭、ザルツブルク音楽祭などに登場。近年では、オランダ国立オペラで『アンナ・ボレーナ』『マリア・ストウアルダ』に続き『ロベルト・デヴェリュー』を指揮したほか、ウィーン国立歌劇場『ドン・パスクワレ』、メトロポリタン歌劇場『連隊の娘』、チューリヒ歌劇場『イタリアのトルコ人』『アンナ・ボレーナ』等を指揮。24/25シーズンはシカゴ・リリック・オペラ『リゴレット』『フィデリオ』『The Listeners』、ベルリン・ドイツ・オペラ『マクベス』などを指揮する。新国立劇場では12年『ドン・ジョヴァンニ』を指揮した。



【演出】栗山民也

KURIYAMA Tamiya

早稲田大学文学部演劇学科卒業。主な演出作品に『GHETTO／ゲットー』『きらめく星座』『海をゆく者』『組曲虐殺』『スリル・ミー』『ピアフ』『藪原校校』『アルカディア』『ディスグレイスト 恥辱』などがある。紀伊國屋演劇賞個人賞、読売演劇大賞最優秀演出家賞、芸術選奨文部大臣新人賞、毎日芸術賞、千田是也賞、朝日舞台芸術賞、芸術選奨文部科学大臣賞、菊田一夫演劇賞などを受賞。紫綬褒章、旭日小綬章受章。新国立劇場では、『今宵限りは…』『ブッダ』『キーン』『夜への長い旅路』『欲望という名の電車』『ピカドン・キジムナー』『夢の裂け目』『ワーニャおじさん』『櫻の園』『浮標』『涙の谷、銀河の丘』『夢の泪』『世阿弥』『胎内』『喪服の似合うエレクトラ』『箱根強羅ホテル』『母・肝っ玉とその子どもたち』『夢の痼』『CLEANSKINS／きれいな肌』『氷屋来たる』『まほろば』『雨』『マニラ瑞穂記』『あわれ彼女は娼婦』『トロイ戦争は起こらない』、オペラ『夕鶴』『蝶々夫人』を演出。2000年から7シーズン新国立劇場演劇芸術監督を務め、05年から16年3月まで新国立劇場演劇研修所初代所長を務めた。



【蝶々夫人】小林厚子(ソプラノ)

KOBAYASHI Atsuko

東京藝術大学大学院オペラ科修了。文化庁在外派遣によりイタリアにて研修。藤原歌劇団『蝶々夫人』でタイトルロールデビュー。『フランチェスカ・ダ・リミニ』『フランチェスカ』『マクベス』マクベス夫人、『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・アンナ、『ナヴァラの娘』アニタ、『イル・トロヴァトーレ』レオノーラ、『蝶々夫人』『トスカ』タイトルロールなどに出演。コンサートにおいても演奏会形式やナーチェック『イエヌーファ』、ベートーヴェン『第九』『ミサ・ソレムニス』、ヴェルディ『レクイエム』『オテロ』(演奏会形式)、マーラー『復活』などで活躍している。新国立劇場では18年新国立劇場『トスカ』の千秋楽公演にて急遽タイトルロールの代役を務めたほか、2021年『ワルキューレ』ジークリンデ、『ドン・カルロ』エリザベッタに出演し、いずれも極めて高い評価を得た。高校生のためのオペラ鑑賞教室『蝶々夫人』『トスカ』タイトルロールにも出演。藤原歌劇団団員。



【ピンカートン】ホセ・シメリーリャ・ロメロ(テノール)**José Simerilla ROMERO**

アルゼンチン＝スペイン系アメリカ人テノール。バレンシア音楽大学とステットソン大学で学位を取得し、ヒューストン・グランド・オペラ、ロサンゼルス・オペラ、オランダ国立オペラ、カーネギー・ホールの各研修所で学ぶ。2023 年ハンス・ガボア・ベルヴェデーレ国際声楽コンクールのほか、シカゴ国際音楽コンクール、カメラータ・バルディ国際声楽コンクール、メトロポリタン歌劇場ナショナル・カウンスル・オーディションなどで入賞。オペラでは、ベルリン・コーミッシェ・オーバー『ハムレット』ラエルト、ハノーファー州立歌劇場『ラ・ボエーム』ロドルフォ、『サルタン皇帝』クヴィドン、『カルメル会修道女の対話』ラ・フォース侯爵、『エウゲニ・オネーギン』レンスキー、『愛の妙薬』ネモリーノ、イングリッシュ・ナショナル・オペラ『椿姫』アルフレードなどに出演。24/25 シーズンはザクセン州立歌劇場『ファウスト』メフィストフェレス、バーゼル歌劇場『椿姫』アルフレード、ドーセット・オペラフェスティバル『蝶々夫人』ピンカートン、リモージュ歌劇場、ヴィシー歌劇場『トスカ』カヴァラドッシ、ベルリン・ドイツ・オペラ『ナブッコ』イスマエーレに出演する。新国立劇場初登場。

**【シャープレス】ブルーノ・タッディア(バリトン)****Bruno TADDIA**

イタリア出身。ヴァイオリンを学んだ後、声楽、ヴァイオリン、作曲を学ぶ。ヴァイオリニストとして活動を始めた後、2001 年のロッシーニ・オペラ・フェスティバル『ランスへの旅』アルヴァーロでオペラデビュー。ミラノ・スカラ座、英国ロイヤルオペラ、ジュネーヴ大劇場、ザクセン州立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、シャトレ座、シャンゼリゼ劇場、アン・デア・ウィーン劇場、リセウ大劇場など世界各地の歌劇場で『セビリアの理髪師』フィガロ、『フィガロの結婚』アルマヴィーヴァ伯爵、『オーリードのイフィジェニー』オレステ、『ドン・パスクワーレ』マラテスタ、『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロールなどへ出演。最近の主な成功作に、モネ劇場『バスタルダ』ノッティンガム、プッチーニ・フェスティバル『ジャンニ・スキッキ』タイトルロール、カリアリ歌劇場『愛の妙薬』ベルコーレ、トリエステ歌劇場『ドン・パスクワーレ』マラテスタ、コロラド・オペラ、フイレンツェ歌劇場、ジュネーヴ大劇場『セビリアの理髪師』フィガロ、モンペリエ歌劇場『ファルスタッフ』タイトルロール、『ドン・パスクワーレ』タイトルロールがある。新国立劇場初登場。

**【スズキ】山下牧子(メゾソプラノ)****YAMASHITA Makiko**

広島大学教育学部卒業、東京藝術大学大学院声楽専攻修了。第 1 回東京音楽コンクール第 1 位。これまでに『ジュリアス・シーザー』タイトルロール、『コジ・ファン・トゥッテ』ドラベッラ、『フィガロの結婚』ケルビーノ、『カルメン』タイトルロール、『トリスタンとイゾルデ』ブランゲーネなどを演じ、スケール大きな歌唱と豊かな音楽性で音楽界を席巻する。新国立劇場では『カヴァレリア・ルスティカーナ』『ルル』『サロメ』『軍人たち』『リゴレット』『蝶々夫人』『ワルキューレ』『ヴォツェック』『カルメン』『沈黙』『ホフマン物語』『死の都』など数多く出演、最近では、『蝶々夫人』スズキ、『夜鳴きうぐいす』死神、『イオランタ』マルタ、『魔笛』侍女Ⅲ、『ニュルンベルクのマイスタージンガー』マグダレーネ、『さまよえるオランダ人』マリー、『カルメン』(高校生のためのオペラ鑑賞教室公演及びびわ湖ホール公演)タイトルロールなどに出演している。二期会会員。



新国立劇場 2024/2025 シーズンオペラ
G. プッチーニ 蝶々夫人
Giacomo PUCCINI / Madama Butterfly
全 2 幕〈イタリア語上演／日本語及び英語字幕付〉

【公演日程】 2025 年 5 月 14 日(水)18:30／17 日(土)14:00／21 日(水)14:00／24 日(土)14:00 全 4 公演

【会場】新国立劇場 オペラパレス

【チケット料金】 S:26,400 円・A:22,000 円・B:15,400 円・C:9,900 円・D:6,600 円・Z:1,650 円

【前売開始】 2025 年 2 月 22 日(土) 10:00～

※予定上演時間 約 2 時間 40 分 (休憩含む)

指揮 エンリケ・マッツォーラ
Conductor Enrique MAZZOLA
演出 栗山民也
Production KURIYAMA Tamiya
美術 島 次郎
Set Design SHIMA Jiro
衣裳 前田文子
Costume Design MAEDA Ayako
照明 勝柴次朗
Lighting Design KATSUSHIBA Jiro
再演出 澤田康子
Revival Director SAWADA Yasuko

蝶々夫人 小林厚子
Madama Butterfly KOBAYASHI Atsuko
ピンカートン ホセ・シメリーリャ・ロメロ
Pinkerton José Simerilla ROMERO
シャープレス ブルーノ・タッディア
Sharpless Bruno TADDIA
スズキ 山下牧子
Suzuki YAMASHITA Makiko
ゴロー 糸賀修平
Goro ITOGA Shuhei
ボンゾ 妻屋秀和
Bonzo TSUMAYA Hidekazu
神官 上野裕之
Il commissario imperiale UENO Hiroyuki
ヤマドリ 吉川健一
Il Principe Yamadori YOSHIKAWA Kenichi
ケート 佐藤路子
Kate Pinkerton SATO Michiko

合唱指揮 富平恭平
Chorus Master TOMIHIRA Kyohei
合唱 新国立劇場合唱団
Chorus New National Theatre Chorus
管弦楽 東京フィルハーモニー交響楽団
Orchestra Tokyo Philharmonic Orchestra

芸術監督 大野和士
Artistic Director ONO Kazushi

公演情報 WEB サイト <https://www.nntt.jac.go.jp/opera/madamabutterfly/>

【チケットのご予約・お問い合わせ】 新国立劇場ボックスオフィス TEL:03-5352-9999 (10:00～18:00)
新国立劇場Webボックスオフィス <https://nntt.pia.jp/>

【チケット取り扱い】チケットぴあ、イープラス、ローソンチケットほか

* Z席 1,650 円: 公演当日朝 10 時より、新国立劇場 Web ボックスオフィスほかで販売。1 人 1 枚。電話予約不可。

* 当日学生割引(50%)、ジュニア割引(20%)、高齢者割引、障害者割引、学生割引など各種割引あり。* 未就学児入場不可。

本公演はレパートリー作品です。過去の上演の舞台写真を宣材としてご提供致します。



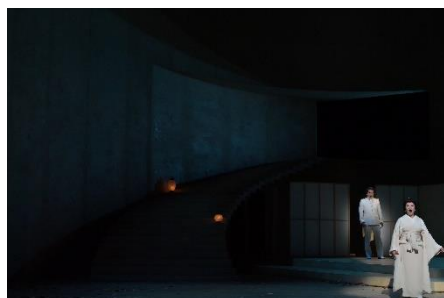
【1】



【2】



【3】



【4】



【5】



【6】



【7】



【8】



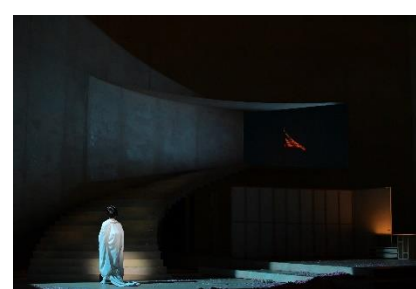
【9】



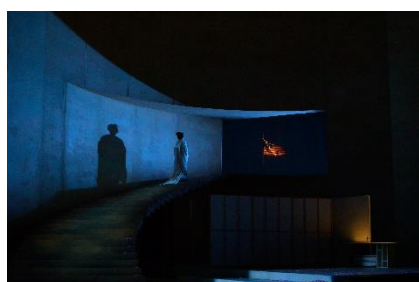
【10】



【11】



【12】



【13】



【14】



【15】